

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-96-3		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.wi.nc.or.jp/kai/gosi/p/infonationPublic.do?JCD=2170500389&amp;SCD=320L">http://kouhyou.wi.nc.or.jp/kai/gosi/p/infonationPublic.do?JCD=2170500389&amp;SCD=320L</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力に合わせて作業療法として、今年はガーデニングに力を入れたり体力作りとして朝夕職員とホームの犬2匹の散歩をし、下肢筋力増強や近隣とのふれあいを楽しんでいます。職員は常に利用者に寄り添い、意志を尊重し、安心して生活を送れるよう明るく、楽しい、雰囲気作りをするよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

健康第一に考え、食べることの大切さを意識し、職員手作りの無農薬野菜を使用している。「健康から自立へ」の理念に添い本人の意向や希望の把握に努め、閉じこもらず、やる気を促し、ゆったり、あせらず、見守りながら、生活リハビリを取り入れ実践している。利用者は男性が多いがお互い寄り添い、話し合い、助け合うという共同生活を支援している。運営推進会議では地域メンバーとの活発な意見交換から、地域協力関係ができてきているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	さまざまな機会を通じ地域の人々との交流を大切にするを理念とし、職員が意識し、交流を深めるよう実践に取り組んでいる	理念を職員控え室に掲示して意識付けを図り、理念と整合した「心構え」を職員で考え、利用者や家族、地域の人達と接している。新人職員は、心構えを書いたメモを身につけ、常に意識して実践できるよう努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、秋祭りなどの行事に参加している地域の一員として、溝掃除活動も積極的にやっている	散歩時の挨拶や立ち話・ベランダ越しの挨拶など職員や利用者は普段から地域の人達と交流している。利用者の好きな花や銀杏をもらったり、祭りの神輿をホーム玄関で迎えている。職場体験を受け入れ中学生と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、自治会長や民生委員を通じ、婦人会のボランティアとの交流で地域の見守りが構築されている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し行事や問題点について、話し合いがされている。この会議を活かし、避難訓練を実施、意見やサービスの向上に活かしている	地域のメンバーから協力的な意見がある。花の苗が届いたり、暗い裏通りにも街灯が設置された。民生委員より地域と一緒に避難訓練に参加協力の話もあるなど意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉k行議会の方たちとの連絡を密にし、相談や、要望をしたり、指導を受け課題、解決を図っている。	定期的に市職員の訪問があり、事業所からも市に出向き、報告や困難な課題について相談をしているが、管理者と直接の協力関係ができていない。	事務職員によって連携ができていますが、管理者からも協力関係を密にされることを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り取り組んで、入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解している。玄関の施錠もすることはあるが、状態化はしていない。	身体拘束の研修を行い、職員はその弊害について理解している。見守り支援をすることで鍵を掛けていない。暴力的な言葉、命令的な言葉を出さないようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はされていないが、職員間ので報告を密にし、見過ごされることがないように全職員で防止徹底を図っていく。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この必要性に応じて、分らないことは、市、関係者に問い合わせたりしていますが、今のところ該当者はいません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています、又、改定など生じた場合は、郵送にて文章等をお送りして、署名捺印をいただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に「ふれあい箱」を設置し、気がるに意見や要望を言えるような関係作り努めています。又行政機関を利用して苦情を表せるよう表記してある。	家族の意見は訪問時に聞いている。難聴の利用者にはボードを使ってコミュニケーションを取り、意見や要望を聞いている。常に利用者の声を重視し丁寧に時間を掛けて話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開き意見を反映させている事業所全体では、年2回の会議を開催し、他の部署での意見交換もしている。	職員は日々の支援のなかでサービスについて気付いたことをノートに記録し、会議で意見を出している。浴槽の段差が危険との判断から、椅子や滑りどめマット導入の提案があり、即購入するなど職員の意見を反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換やコミュニケーションを図り、職員の思いや、考えを把握するよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり、研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学機会を設け、情報収集をし生活の変化によるダメージの軽減を図っている。安心して良い関係が作れるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、見学機会を設け、家族の意向や要望を聞き、安心して頂けるような信頼関係を築くよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集し、今、何が必要かを見極めて他のサービスが必要な場合は協力支援するよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩ととらえ、それぞれ得意分野で力を発揮してもらい、声を掛け合い助け合い日常生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、職員が常に中立な立場でより良い関係が保てるよう支援し、本人の思いに添えるような関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人自ら手紙を出される場合もあるが、馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶をのみ、楽しみに再訪しやすい雰囲気づくりに努めている。住んでいた地域をドライブすることもある	行事の花見や買い物など、外出時に馴染みの場所や、自宅周辺を訪れている。友人の訪問の継続や、公衆電話を支援をしている。居室に閉じこもりがちな利用者にも声をかけ、利用者同士の馴染みの関係ができるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間のホールにテレビがあり、その場に自然と集まったり、何か作業をする時も、する方、しない方に関わらず、この場で交流を取っている。日々の日課を通し利用者同士が関わり孤立しない雰囲気作りに努めている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから連絡することはありませんが、家族や利用者とはしばしば声を掛け、双方の近況を話していますし、退所されたご家族から野菜を提供して下さったり交流を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをたくさん取ることで入居者の生活歴を知り思いや暮らしの希望に添えるよう努めています。困難な方は、表情や身振り手振りから思いを酌み取るよう努めています。	「歩きたい」と言う本人の希望から、リハビリで歩行が可能になった。筆談や単語・ジェスチャーからも思いを把握するなど利用者それぞれの希望や意見を汲み取る方法を工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら面接等で生活歴や家族構成今までの生活環境を把握するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を全職員が把握し、積極的にコミュニケーションを図り、傾聴、言葉、表情から観察し手、現状の把握に努め、記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時に本人、家族の意見や意向を聞き職員の気づき等を反映、主治医の意見も取り入れて介護計画の作成をしている。	介護記録や職員の気付きノートを基に、利用者や家族の希望を入れて、主治医と相談しながら介護計画を作成している。また、状態に合わせて見直し、計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について、毎日状態の変化を具体的に記入し気付いた時等はすぐに職員間で話し合い工夫、計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ理美容院の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て、支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源、エネルギーの節約、花、野菜を植え、収穫を楽しんでいる		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接しているため、ちょっとした変化等に気付いた時などは、常に医師を相談しながら、安心した生活を送っているが、別のかかりつけ医での受診を希望される方はホームの主治医の情報をもち、家族の協力得て受診してもらっています	隣接の母体医療機関が主治医(内科・歯科)となり、定期的に受診をしている。眼科など専門医を受診希望の利用者は、主治医の紹介状を持って家族と受診している。受診結果は共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係機関、看護職との連携を密にし情報交換し、利用者の声をよく聞き適切な看護又は、受信が出来るよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、相談を行い早期退院について、家族との医療機関との連絡がスムーズに行えるよう支援している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族関係者が話し合いをし、方針を確認している。本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう細やかな介護ができるよう努めている。	終末期のあり方については、本人・家族に看取りはしないホームの方針を説明している。利用者の状態の変化ごとにできることを話し合いながら、終末には母体の病院に入院としている。しかし、今後、本人・家族の希望を聞きホームでの看取りの検討をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期の急変等について、情報を交換し、それを全職員で話し合い、応急手当が出来るようしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消化器の取り扱いの訓練や避難訓練はしている。運営推進会議メンバーの見守り中、消防機関に協力の元、夜間を想定した避難訓練も行っている。運営推進会議メンバーである、自治会長や、民生委員の方たちも地域連携を取り、協力体制を築いている。	火災報知機を設置し、居室には熱感知器、ホールには煙熱感知器を取り付けている。地域の自治会長や民生委員も参加して夜間想定防災訓練をしている。今後、自治会の協力を得ながら合同訓練の話もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し入室時は必ずノックし、声を掛ける。失敗等にもさりげない言葉かけや、目立たない介助を心がけている。	入室時のノックをして自尊心を損ねない声かけをしている。入浴時に人前で裸になる・排泄の誘導や介助などの羞恥心にも十分配慮している。しかし、居室のポータブルトイレ・パットなどがそのまま目につく場所にある。	夜間使用のポータブルトイレやパットの置き場所の工夫が望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをたくさんとり、希望や関心ごと嗜好を見極め日常の中で本人が自己決定できる様になっている。なんでも話せる関係を保てるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りをしながら支援している。食事等で時間がかかる方は、あせらず少し早めに食べて頂き、入浴は入って頂く順番を教え、ご自身のスペースでゆっくり入って頂く。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回ぐらいのペースで美容院に歩ける人は出向いたり、施設に出張してもらっている。一緒に衣装のチェックをしたり、必要な物を買ってそろえたり、女性は化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物を尋ね、出来る限りそれに応えられるよう努力している。季節の旬の野菜を取り入れて目で楽しんでもらう。又、食事の後片付けは、当番制にして、皆で協力して一緒にしている。	調理担当者が、好みやバランス(母体の栄養士と相談)を配慮して作っている。利用者の状態にあわせ、刻みなどにして誤嚥しない工夫をしている。利用者と一緒に片付けや掃除をしているが、利用者と一緒に食卓を囲んでいない。	大勢で食卓を囲み、職員や利用者が育てた野菜の話題などで、楽しい食事になるよう期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない様バランスを考え、1週間のメニュー決めている。又、10時と3時には、水分補給のため、ティータイムとしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、ご自分で歯磨きをされ、困難な方は介助をしながら、嗽等をしていただきます。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握して、さりげなく声掛け。誘導したり、訴えがあれば何時でも誘導介助している。日中はオムツはずしに取り組んでいる。	利用者が入居した時、観察しながら排泄チェックする事でパターンを把握している。利用者が毎日のリハビリで歩行可能になり、排泄の自立ができた事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、食物繊維を多く摂取して頂いたり、水分補給にも努めている。運動不足にならない様日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や好みを聞き何事でも気持ちよく入浴を楽しめるようにしている。介助が必要な方もプライバシーに配慮しながら安心して、入浴をさせて頂いています。	補助具を利用して安全な入浴支援をしている。好みの入浴剤を入れたり、長湯の好きな利用者には、外から声かけの見守りをするなど利用者一人一人に合った工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置しており、室温、風向き等の環境を整えています。日中でも体調に合わせて自由に休んでも頂いています。夜寝る前は穏やかな環境をつくる工夫をしています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの薬は、用法、用量等は、薬袋に記載しており、入居者様の個々の薬の目的は周知している。主治医と連絡を密にして変化があればすぐ対処している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごと:塗り絵、貼り絵、カレンダー作り、花作り、花壇の手入れ、や生け花等してもらい、モップ掛けや洗濯物を干したり、たたんだり食器拭きや庭はきや、季節に合わせて、お花見やドライブ庭でのお茶会で気分転換している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって、ホームの犬の散歩に出掛けたり、近くの公園や地域のお祭りに参加し、閉じこもりがちな入居者様には、無理に押し付けない様段階的に居室から誘い交流を促している。	利用者の体調や天候に合わせ、散歩や近くのコンビニまで買い物に出かけたり、桜の季節にはお花見に出かけている。日々の会話から思い出の場所にドライブするなど、利用者の思いに添った支援をしている。	

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方はご自分で財布を持ち、出来ない方は、事務所で預かっており、本人の希望を聞き買い物支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置して何時でも自由に使用できる。手紙も希望があれば代筆をしている。実際ご自分で家族に手紙を書かれたり、電話で連絡を取り合っている方に見える。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生け、ホールには共同制作の作品を飾り季節感が感じられる工夫をしている。台所が身近にあり、料理の香りや音も楽しみである。室内犬とのふれあいも癒しとなっている。	庭で地域住民から頂いた花や野菜を育てている。玄関には利用者手作りの干支のウサギが並び、居間では料理のにおいが食欲を誘い生活感がある。二階への階段の手すりは安全に配慮している。犬もホームの一員である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ホールで、人の気配を感じながら安心して過ごせる居場所を確保している。ホールにはテレビを設置、自由に見ることができる。入居者同士話がはずんでいる時は話の中に入らない様気を配る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた、家具を持って来て頂き、好きな絵や、花写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないよう工夫している。	ミニ盆栽を育てたり、塗り絵をしたり、掃除をするなどして過ごしている。好みの写真や经文・数珠・化粧品・冷蔵庫を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、ご自分の居室の掃除や簡単な食事の手伝い、洗濯、花壇の手入れや趣味等自分で出来ることは、して頂いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-96-3		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.wi.nc.or.jp/kai/gosi/p/i/nfonati/onPubli.c.do?JCD=2170500389&SCD=320>

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>さまざまな機会を通じ地域の人々との交流を大切にするを理念とし、職員が意識し、交流を深めるよう実践に取り組んでいる</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入しており、秋祭りなどの行事に参加している地域の一員として、溝掃除活動も積極的に行っている</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を活用し、自治会長や民生委員を通じ、婦人会のボランティアとの交流で地域の見守りが構築されている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し行事や問題点について、話し合いがされている。この会議を活かし、避難訓練を実施、意見やサービスの向上に活かしている</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉行政議会の方たちとの連絡を密にし、相談や、要望をしたり、指導を受け課題、解決を図っている。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が周知徹底を図り取り組んで、入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解している。玄関の施錠もすることはあるが、状態化はしていない。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内での虐待はされていないが、職員間での報告を密にし、見過ごされることがないように全職員で防止徹底を図っていく。</p>		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この必要性に応じて、分らないことは、市、関係者に問い合わせたりしていますが、今のところ該当者はいません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています、又、改定など生じた場合は、郵送にて文章等をお送りして、署名捺印をいただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に「ふれあい箱」を設置し、気がるに意見や要望を言えるような関係作り努めています。又行政機関を利用して苦情を表せるよう表記してある。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開き意見を反映させている事業所全体では、年2回の会議を開催し、他の部署での意見交換もしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換やコミュニケーションを図り、職員の思いや、考えを把握するよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり、研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学機会を設け、情報収集をし生活の変化によるダメージの軽減を図っている。安心して良い関係が作れるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、見学機会を設け、家族の意向や要望を聞き、安心して頂けるような信頼関係を築くよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集し、今、何が必要かを見極めて他のサービスが必要な場合は協力支援するよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩とらえ、それぞれ得意分野で力を発揮してもらい、声を掛け合い助け合い日常生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、職員が常に中立な立場でより良い関係が保てるよう支援し、本人の思いに添えるような関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人自ら手紙を出される場合もあるが、馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶をのみ、楽しみに再訪しやすい雰囲気づくりに努めている。住んでいた地域をドライブすることもある		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間のホールにテレビがあり、その場に自然と集まったり、何か作業をする時も、する方、しない方に関わらず、この場で交流を取っている。日々の日課を通し利用者同士が関わり孤立しない雰囲気作りに努めている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから連絡することはありませんが、家族や利用者とはしばしば声を掛け、双方の近況を話していますし、退所されたご家族から野菜を提供して下さったり交流を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをたくさん取ることで入居者の生活歴を知り思いや暮らしの希望に添えるよう努めています。困難な方は、表情や身振り手振りから思いを酌み取るよう努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら面接等で生活歴や家族構成今までの生活環境を把握するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を全職員が把握し、積極的にコミュニケーションを図り、傾聴、言葉、表情から観察し手、現状の把握に努め、記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時に本人、家族の意見や意向を聞き職員の気づき等を反映、主治医の意見も取り入れて介護計画の作成をしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について、毎日状態の変化を具体的に記入し気付いた時等はすぐに職員間で話し合い工夫、計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ理美容院の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て、支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源、エネルギーの節約、花、野菜を植え、収穫を楽しんでいる		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接しているため、ちょっとした変化等に気付いた時などは、常に医師を相談しながら、安心した生活を送っているが、別のかかりつけ医での受診を希望される方はホームの主治医の情報を持ち、家族の協力得て受診してもらっています		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係機関、看護職との連携を密にし情報交換し、利用者の声をよく聞き適切な看護又は、受信が出来るよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、相談を行い早期退院について、家族との医療機関との連絡がスムーズに行えるよう支援している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族関係者が話し合いをし、方針を確認している。本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう細やかな介護ができるよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期の急変等について、情報を交換し、それを全職員で話し合い、応急手当が出来るようしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消化器の取り扱いの訓練や避難訓練はしている。運営推進会議メンバーの見守る中、消防機関に協力の元、夜間を想定した避難訓練も行っている。運営推進会議メンバーである、自治会長や、民生委員の方たちも地域連携を取り、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し入室時は必ずノックし、声を掛ける。失敗等にもさりげない言葉かけや、目立たない介助を心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをたくさんとり、希望や関心ごと嗜好を見極め日常の中で本人が自己決定できるようにしている。なんでも話せる関係を保てるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りをしながら支援している。食事等で時間がかかる方は、あせらず少し早めに食べて頂き、入浴は入って頂く順番を教え、ご自身のスペースでゆっくり入って頂く。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回ぐらいのペースで美容院に歩ける人は出向いたり、施設に出張してもらっている。一緒に衣装のチェックをしたり、必要な物を買ってそろえたり、女性は化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物を尋ね、出来る限りそれに応えられるよう努力している。季節の旬の野菜を取り入れて目で楽しんでもらう。又、食事の後片付けは、当番制にして、皆で協力して一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない様バランスを考え、1週間のメニュー決めている。又、10時と3時には、水分補給のため、ティータイムとしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、ご自分で歯磨きをされ、困難な方は介助をしながら、嗽等をしていただきます。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握して、さりげなく声掛け。誘導したり、訴えがあれば何時でも誘導介助している。日中はオムツはずしに取り組んでいる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、食物繊維を多く摂取して頂いたり、水分補給にも努めている。運動不足にならない様日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や好みを聞き何事でも気持ちよく入浴を楽しめるようにしている。介助が必要な方もプライバシーに配慮しながら安心して、入浴をして頂いています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置しており、室温、風向き等の環境を整えています。日中でも体調に合わせて自由に休んで頂いています。夜寝る前は穏やかな環境をつくる工夫をしています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの薬は、用法、用量等は、薬袋に記載しており、入居者様の個々の薬の目的は周知している。主治医と連絡を密にして変化があればすぐ対処している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごと:塗り絵、貼り絵、カレンダー作り、花作り、花壇の手入れ、や生け花等してもらい、モップ掛けや洗濯物を干したり、たたんだり食器拭きや庭はきや、季節に合わせて、お花見やドライブ庭でのお茶会で気分転換している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって、ホームの犬の散歩に出掛けたり、近くの公園や地域のお祭りに参加し、閉じこもりがちな入居者様には、無理に押し付けない様段階的に居室から誘い交流を促している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方はご自分で財布を持ち、出来ない方は、事務所で預かっており、本人の希望を聞き買い物支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置して何時でも自由に使用できる。手紙も希望があれば代筆をしている。実際ご自分で家族に手紙を書かれたり、電話で連絡を取り合っている方に見える。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生け、ホールには共同制作の作品を飾り季節感が感じられる工夫をしている。台所が身近にあり、料理の香りや音も楽しみである。室内犬とのふれあいも癒しとなっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ホールで、人の気配を感じながら安心して過ごせる居場所を確保している。ホールにはテレビを設置、自由に見ることができる。入居者同士話がはずんでいる時は話の中に入らない様気を配る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた、家具を持って来て頂き、好きな絵や、花写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、ご自分の居室の掃除や簡単な食事の手伝い、洗濯、花壇の手入れや趣味等自分で出来ることは、して頂いている。		